

県協会だより

第 44 号

令和 3 年 4 月 1 日

発 行

鳥 取 県

バドミントン協会

総務本部 総務部

会長就任にあたって

会 長 福 浜 隆 宏



昭和 45 年～16 年間「県協会副理事長」、昭和 61 年～21 年間「県協会理事長」、そして平成 16 年～17 年間「県協会会長」を歴任されるなど、実に半世紀以上にわたり本協会を文字通り牽引され、新年度からは名誉会長に就任された加藤博司前会長からバトンを引き継ぎ、会長職を担うことになりました。この重責に身の引き締まる思いで一杯です。

加藤名誉会長は「競技者あつての県協会」をスローガンに掲げ、バドミントンに携わる皆さま全員が理念と情報を共有化するために、規約・規程を見直し、組織を再構築され、風通し良い協会づくりに向けて汗を流して来られたのはご存知の通りです。正直申し上げて、私には同じレベルのことを実行する力も見識も持ち合わせておりません。それでも不安感は全くありません。長年、加藤前会長の両腕として共に歩まれた小谷章公氏、岩垣毅氏の御両名が副会長職に留まっていたごき、濱橋喜幸副会長に加えて、石谷浩氏も新たに副会長にご就任いただくことになりました。

また源憲治理事長をはじめ、副理事長職には松本伸司氏、藤田英二氏、長濱洋次氏に加え、新たに植田睦美氏、山本明良氏、持田隆昌氏の 3 名もお引き受けいただくことが叶いました。このほか理事や代議員の皆さま、現場の指導者の皆さま、そして保護者の皆さまも含めて、「競技者ファースト」を共有する仲間・チームとして支えていただけると信じているからです。それを形に表したひとつが 2 月 13・14 日に鳥取県民体育館で開催された「ヨネックス」を招聘しての「チアフル鳥取」とのエキシビジョンマッチでした。当時、鳥取県内では新型コロナの陽性者が連日判明する状態。『無観客開催』も、当然視野には入れておりました。しかし、「日本代表選手のプレーを、ぜひ子どもたちに見てもらいたい」「ではどうすれば感染リスクを抑えて観客を受け入れられるのか？」現場の皆さまお一人お一人が指示されたからではなく、自ら考え、ベストな選択を行い、行動に移したからこそ実現できたと思っています。当日、食い入るように選手を見つめていた子どもたちの姿が脳裏に焼き付いて離れません。これこそが、他団体にはなかなか真似の出来ない本協会の強みではないでしょうか。

ワクチン接種がはじまりましたが、希望者全員に行き渡るのは年明けの 2 月になりそうで新年度一杯までコロナ禍は続きます。こうした中で、新年度は 9 月に全日本社会人、12 月に S/J リーグと 2 つの全国大会。そして 8 月に中国中学校選手権、10 月に中国小学生選手権、12 月に中国教職員選手権と 3 つの中国大会が控えています。最終的に開催の可否は、その時点での感染状況を踏まえての

判断にはなりますが、「最初から無理」と諦めず、「どうすれば開催できるのか？」という姿勢で向かいたいと思います。その分、皆さまにはご負担をおかけすることにはなりますが、東部・中部・西部の会場如何に関わらず「ワンチーム」になって、各大会を支えていただきたくお願い申し上げます。

頼りない会長をどうか助けて下さい。「競技者ファースト精神」を持続していきましょう。

令和3年度に向けて

理事長 源 憲 治

令和2年度第2回代議員会を3月13日に開催して、令和3年度事業計画、予算案及び新役員が決まり、新年度がスタートしました。昨年度は、新型コロナウイルス対策で、多数の方が集まる感染リスクの高いスポーツイベント等の自粛要請を受けて、当協会も感染拡大を防止する迅速な対応を図り、各大会等の開催を自粛・中止し、ほとんどの事業等を行うことができませんでした。

令和3年度は、まだまだコロナ禍が続くと思いますが、「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン競技大会・強化事業・講習会等実施にあたってのガイドライン」をもとに各事業等を実施していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

本年度、特に重点事業として取り組みますのは次の通りです。

- ・第64回全日本社会人バドミントン選手権大会 9月3日～8日(鳥取市・倉吉市)
- ・バドミントンS/Jリーグ2021鳥取大会 12月5日(鳥取市)
- ・全国巡回バドミントン講習会キャラバン2021 12月12日(鳥取市)
- ・第42回中国中学校選手権大会 8月3日～5日(鳥取市)
- ・第38回中国地区小学生選手権大会 10月9日～10日(米子市)
- ・第31回中国地区教職員バドミントン選手権 12月26日～27日(倉吉市)

新年度の事業計画に沿って、新役員が一丸となって推進して参りますので、会員の皆様の各種大会へのご参加並びに協会運営にご理解とご協力をお願いいたします。協会を支えているのは、登録会員であり、その方々に満足いただける方針を示すため中期計画・年度計画を定め目標に向かって事業を推進していきます。併せて、昨年来からの「組織強化」と「人材育成」をスローガンとして協会運営を図って参りますので、皆様のご理解とご協力の程、今後ともよろしくお願いいたします。

総務本部

総務本部長 植田 睦美

令和2年度第2回代議員会において役員交代が承認され、令和3年度新体制に刷新され船出します。今年度から総務本部長を拝命し、協会の総務部門のとりまとめをさせて頂くこととなりました。昨年年頭よりのコロナ禍での協会運営、事業運営に多くの課題を抱える中、周囲の皆さまの力をお借りしながら、速やかな運営体制が確保できるよう努めてまいりますので、ご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

◆役員体制

(公財)日本バドミントン協会	理事	源 憲治
	評議員	長濱 洋次
中国地区バドミントン協会	会長	福浜 隆宏
	理事長	源 憲治
	理事・事務局長	長濱 洋次

県協会だより

	監 事	持田 隆昌
	審判委員長	藤田 英二
	指導委員長	渡部 茂樹
鳥取県スポーツ協会	会 長	福浜 隆宏
鳥取県バドミントン協会	理事長	源 憲治
	事務局長	持田 隆昌
	強化本部長	山本 明良
	強化事務担当	長濱 洋次

◆鳥取県バドミントン協会新役員の紹介

名誉会長(新設)	加藤 博司			
会 長	福浜 隆宏			
副会長	石谷 浩			
副理事長	植田 睦美	山本 明良	持田 隆昌	
理 事	松本 直央	永野 守	赤井 啓介	

◆令和2年度鳥取県バドミントン協会関係受賞者のご紹介 (敬称略)

公益財団法人日本バドミントン協会

【顕讃賞】 山川 友子

公益財団法人鳥取県スポーツ協会

【体育功労賞】 源 憲治 【優秀指導者賞】 松本 伸司

鳥取県バドミントン協会

【顕讃賞】 片寄 博之 ・ 植田 睦美

事業本部

事業本部長 瀨橋 喜幸

日頃は協会事業にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

2020年は1月からじわじわと新型コロナウイルス感染者が増えて行き、非常事態宣言が発令されたころには、予定されていた大会を含めた事業を中止せざるを得ませんでした。東京オリンピック・パラリンピックも1年延期をせざるを得ませんでした。鳥取県民体育館で2021年2月14日に予定しておりましたS/Jリーグも新型コロナウイルス感染拡大の影響でS/Jリーグ全試合の中止決定の報告がS/Jリーグ大会実行委員会よりあり、ショックを受けました。

そんな時、強化本部の山本強化部長からチアフル鳥取とヨネックスの交流試合の話があり、鳥取県バドミントン協会の3本部が手分けして準備をし、「ヨネックス&Cheerful 鳥取ドリームマッチ」の開催にこぎつけました。この時期はまだ新型コロナ禍の中にあり、東京から来られるヨネックスの選手にはPCR検査を2度受けていただき陰性を確認した上で来鳥いただきました。受け入れる鳥取県側も観客の皆様には3密を避け、検温、マスク着用、手指消毒を徹底してもらい新型コロナ感染防止策を十分施していきました。



来鳥いただいたヨネックスの選手の中には、鳥取敬愛高校に籍を置いたことがあるA代表の桜本選手が含まれており、大会に花を添えて頂きました。



一方、Cheerful 鳥取のメンバーもキャプテンの高瀬選手を中心とした選手6人でヨネックスの選手を迎えて見ごたえのある試合をしていただけました。

ドリームマッチの終了後には、地元の高校生・ジュニアたちがヨネックスの選手及びCheerful 鳥取の選手にトレーニングパートナーになって頂き、強化練習会を行いました。高校生・ジュニアたちにとっては有意義な練習会になったと思います。

2021年9月3日～8日には第64回全日本社会人バドミントン選手権大会が同じ会場で開催されます。また、12月5日にはS/Jリーグを鳥取市で開催することも決定しております。組合せカードはまだ決まっておりませんが、多くの方に見に来ていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

強化本部

強化本部長 山本 明良

令和3年3月13日に開催された鳥取県バドミントン協会 代議員会にて強化本部長を拝命いたしました。今まで松本本部長の下、強化部長を務めてまいりましたが、普及指導を含め、強化本部の事業全般を担当することになり、その責任を痛感しているところです。

強化本部は、松本本部長が定めた、次の大きな2つの柱のミッションの下、事業を進めています。

- ① 各種目が継続的に本国体ベスト8を果たすべく強化を図る。
- ② スポーツ指導員資格の取得を促進し、指導力の向上を図る。

今後も、この2つのミッションの下、事業を進めることは変わりありませんが、2033年に予定されている二巡目わかとり国体に向けての取り組みも考えていかなければなりません。13年先の話でまだまだ先と思うところでもあります。2月に鳥取県、鳥取県スポーツ協会から二巡目わかとり国体についてヒヤリングを受け、動き出す時期に来たと思っています。

成年については、今の小学生・中学生が、そして、少年については幼児が活躍することになります。その意味では、長年の課題である中学生の強化に力を入れなければならず、また、幼児についてはバドミントン競技に興味を持ってもらう普及活動が重要になってきます。

また、別の観点では、成年が鳥取で活動できる拠点づくりも重要になります。他県のように大企業がない中での取り組みになりますので大変なことはありますが、強化本部の枠組みにとらわれず、協会全体の課題として取り組んで参りたいと思います。

微力ではありますが、強化本部のミッション達成、そして、二巡目わかとり国体に向け県民の皆様からのご期待に沿えるよう尽力いたしますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。